

令和3年 お茶づくり技術情報 (No.4)

2021年5月11日
佐賀県茶業技術協会
佐賀県茶業試験場

1. 一番茶作況

1) 生育状況 (茶業試験場内作況調査ほ場)

表1 一番茶萌芽期

本 年	前 年	前3か年平均
3月28日	3月27日	3月29日

注) 品種: やぶきた 樹齢: 20年生

表2 作況調査園の芽長と開葉数

調査日	4月5日	4月10日	4月15日	4月20日	4月25日	
芽長 (cm)	本 年	2.8 ± 0.6	4.5 ± 0.9	7.0 ± 1.1	9.3 ± 1.2	13.2 ± 1.5
	前 年	1.3 ± 0.4	2.1 ± 0.6	3.4 ± 0.7	5.6 ± 1.0	7.7 ± 1.1
	前3か年 平 均	1.6 ± 0.4	3.1 ± 0.7	5.2 ± 0.9	7.9 ± 1.2	10.6 ± 1.5
葉数 (枚)	本 年	1.0 ± 0.3	2.1 ± 0.4	2.8 ± 0.4	3.5 ± 0.4	4.5 ± 0.4
	前 年	0.3 ± 0.3	1.1 ± 0.4	1.7 ± 0.4	2.5 ± 0.3	3.2 ± 0.4
	前3か年 平 均	0.6 ± 0.3	1.3 ± 0.4	2.2 ± 0.4	3.1 ± 0.4	4.0 ± 0.4

- (1) 茶業試験場内の作況調査園 (定点調査園、品種: やぶきた) において、2021年3月28日に一番茶の萌芽を確認した。本年の萌芽期は、前年 (3月27日) より1日遅く、前3か年平均 (3月29日) より1日早い (表1)。
- (2) 一番茶萌芽後の新芽生育は、気温が平年並か平年より高く推移したことから順調に生育が進んだ。同一調査日における芽長は前年および前3か年平均より長く、開葉数は前年および前3か年平均より多く推移した (表2)。
- (3) 一番茶の萌芽から摘採までの所要日数は28日間で、前3か年平均の29日間より1日短かった。

2) 一番茶収量 (茶業試験場内作況調査ほ場)

表3 一番茶摘採日

本 年	前 年	前3か年平均
4月25日	4月30日	4月27日

- (1) 本年の一番茶摘採日は4月25日で、前年より5日、前3か年平均より2日早かった (表3)。

表4 一番茶収量と収量構成要素

■一番茶収量 (kg/10a)

本 年		前 年		前3か年平均	
収 量	指 数	収 量	指 数	収 量	指 数
518.9 ± 30.4	92 (120)	432.8 ± 12.3	76	567.1 ± 39.2	100

注) 指数は、前3か年平均を100とした値であり、下段括弧内の値は前年比を示す(以下同様)

■百芽重 (g)

本 年		前 年		前3か年平均	
重 量	指 数	重 量	指 数	重 量	指 数
71.2 ± 3.3	95 (115)	61.9 ± 6.9	82	75.3 ± 6.3	100

■新芽数 (本/m²)

本 年		前 年		前3か年平均	
芽 数	指 数	芽 数	指 数	芽 数	指 数
1100 ± 35	86 (85)	1292 ± 161	101	1278 ± 139	100

■出開度 (%)

本 年	前 年	前3か年平均
25.7 ± 8.2	28.3 ± 1.5	30.4 ± 5.0

- (2) 本年の一番茶収量は519kg/10aで、前年より20%多く、前3か年平均より8%少なかった。出開度は前年および前3か年平均よりやや低かった。
- (3) 百芽重は、前年より15%多く、前3か年平均より5%少なかった。新芽数は、前年および前3か年平均より15%程少なかった。

2) これまでの気象 (一番茶萌芽後)

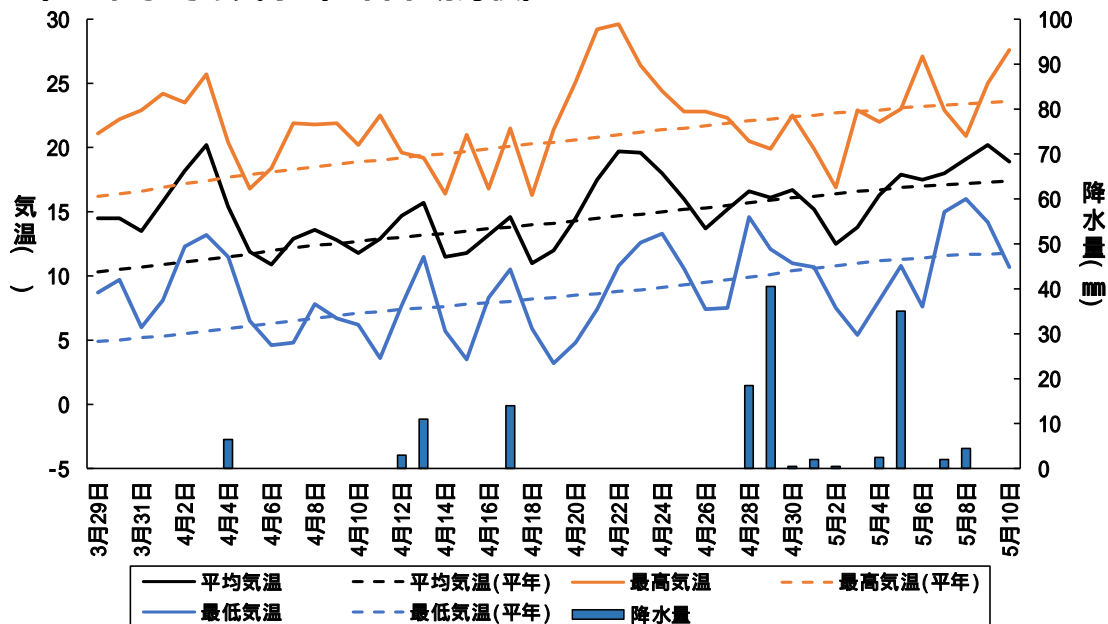


図1 一番茶萌芽後の気象状況 (3月29日~)

- (1) 気温は、4月上、下旬は平年より高く、4月中旬はほぼ平年並に推移した。
- (2) 降雨は、4月上、中旬はほとんどなく、4月下旬以降まとまった降雨が続いた。

3) 今後の気象の見通し

■ 1か月予報（気象庁、令和3年5月6日発表）

向こう1か月の天候の見通し

福岡管区気象台

九州北部地方（5月8日～6月7日）

1か月の平均気温・降水量・日照時間

	平均気温（1か月）	降水量（1か月）	日照時間（1か月）
九州北部地方	低 10 並 20 高 70% 高い見込み	少 20 並 30 多 50% 多い見込み	少 50 並 30 多 20% 少ない見込み

- (1) 向こう1か月の平均気温は、暖かい空気が流れ込みやすいため、平年より高くなる見込みで、特に期間の前半は平年よりかなり高くなる見込み。
- (2) 向こう1か月の降水量および日照時間は、前線や低気圧の影響を受けやすいため降水量は平年より多く、日照時間は平年より少ない見込み。

2. 今後の管理

1) 刈りならし作業

(1) 刈りならしの時期

- ①一番茶摘採 10～14 日後を基本とする。
- ②一番茶の芽揃いが悪かった園（晩霜害を受けた茶園等）や早摘みした茶園では、遅れ芽の発生が著しいので、刈りならし時期をやや遅らせる（14～20 日後）。
- ③2回刈りならしをする場合、2回目が遅すぎると二番茶芽を剪除し、生育のばらつきや減収の原因となるため、作業の遅れに注意する。

(2) 刈りならしの位置

- ①刈りならしの位置は、基本的に一番茶摘採後に立ち上がった葉や遅れ芽を除く程度で、一番茶を摘採した位置で刈りならすようにする。二番茶芽にはハサミをかけないように十分に注意する。

2) 中切り更新

- (1) 秋までの再生芽の生育期間を十分に確保するため、平坦部では8月5日、山間部では7月20日までに再整枝できるように一番茶摘採後から計画しておく（中切りから再整枝までの期間は70～75日が目安）。
- (2) 近年、夏季の高温・干ばつが頻発しているが、今後の気象予報を参考にしながら深さを決定する。また、処理直後に樹上散水（0.5～2t/10a）を行うことで、新芽の再生が促進される。

3) 土壌・肥料

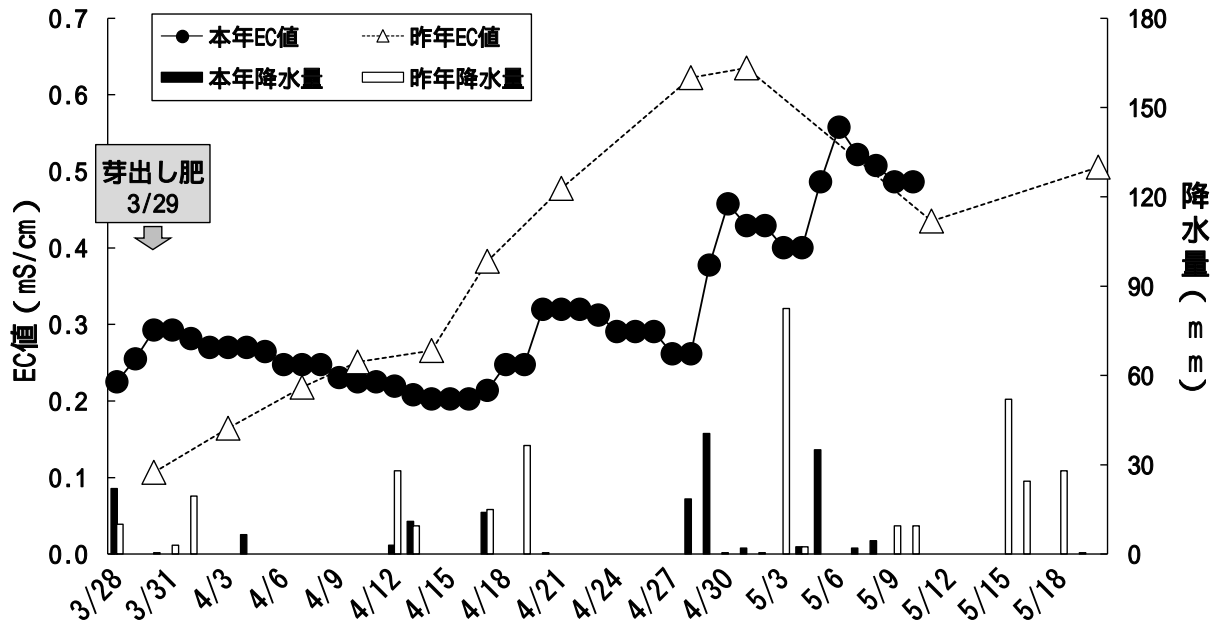


図2 茶試作況調査園における土壌 EC 値の推移

注) 本年の土壌 EC 値は、雨落ち部の深さ 25cm 部分に埋設した土壌センサーにて測定し、実測値に基づき推定した値を示す

- (1) 土壌 EC は、芽出し肥施用 (3/29) の前後に一定の降雨があったことで、徐々に上昇し、3月下旬から4月上旬は前年より高く推移した。しかし、その後、降雨がほとんどなく、4月中旬から下旬にかけて前年より低く推移した。4月下旬以降、まとまった降雨があったことで上昇し、現時点の土壌 EC 値は前年とほぼ同等となっている。
- (2) 二番茶芽出し肥 (夏肥 1) は、一番茶摘採 2 週間後までを目安に、一番茶摘採後できるだけ早く施用し、施用後は土壌とよく混和する。

4) 病害虫防除

病害虫防除については、『令和3年度佐賀県施肥・病害虫防除・雑草防除のてびき』を参照してください。

『令和3年度佐賀県施肥・病害虫防除・雑草防除のてびき』

URL : <https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00321964/index.html>

